



あなたは何女？ 女子分類学

見渡せば世には様々なタイプに分類される個性的な女子がいっぱい。ほら、あなたも！あなたの隣にも！

女子分類① 森ガール

【もりがーる】「森にいそうな女の子」をテーマとする、ゆるくて雰囲気のあるファッションスタイルの女子を形容する造語。Aライン気味のレトロ柄ワンピースにタイツとべたんこ靴といったコーディネートが主な特徴。愛読書はspringと推察され、芸能人で例えると蒼井優さんなどが挙げられる。

森ガールという名称は、mixiの「森ガールコミュニティ」の管理人がそのファッションを「森にいそうな格好だね」と形容されたことに由来する。このコミュニティは、3万5,000人余りを集める人気ぶり。参加者の中では森ガールはナチュラル系やロリータ系とは違うと主張されているが、外見で違いを見分けることは困難である。

女子分類② 農ギャル

【のぎゃる】イケてる農業を目指す元ギャルの女社長が、渋谷駅のハチ公に起因して秋田県大潟村で「渋谷米」を作るべく奮闘してメディアを賑わせたことから派生した、農業に取り組む若い女性を指す造語。芸能人で例えると・・・元祖は高木美保さんかも。キツイ・ダサイ・儲からないと若者たちの中で嫌われる職業の代表格でもあった農業を、おしゅれに楽しくこなそうと試みている。なお、渋谷米は実際に楽天などで通信販売もされている。

女子分類③ 艶女

【あでーじょ】女性誌「NIKITA」よる造語。若い女性にはない圧倒的な経験値から生まれたあらゆるテクニックを身に着けた大人の女性を意味する。芸能人で例えると杉本彩さんが代表格。30代以上で高額所得者のキャリアウーマン、もしくは月に30万円以上を自由に使うことが出来る主婦で、ファッションに気を遣い色気がある大人の女性を指す。

女子分類④ アゲ嬢

【あげじょ】女性誌「小悪魔ageha」のモデルの容姿をお手本にした女性を指す造語。そきゃぱクラに勤務している人も多い。収入の大半をブランド物とファッションに費やすのが特徴。東京・渋谷などで見かける派手めの女子を指す。

ファッションやメイクには命をかけるほど一生懸命なのが特徴で、ヘアスタイルは巻き髪が多く、トップ部分は常にアゲアゲの盛り盛り状態をキープしている。メイクはしっかり＆濃い目、特に目には力を入れ、カラーコンタクト、つけまつ毛やエクステ、デコネイルは必須アイテムとなっている。

女子分類⑤ 歴女

【れきじょ】歴史好きの女性を指す造語。2009年の流行語大賞にトップ10入りした。芸能人ではモデルの杏さんなどが歴女を自負している様子。日本史・世界史を問わないが、主には日本史好きを指すことが多い。神田小川町の書店「時代屋」が聖地とされる。

三国志の赤壁の戦いを題材にした映画「レッドクリフ」の公開がきっかけという説もあるが、それ以前から真田昌幸・真田幸村親子などの歴史上の人物の女性ファンは存在していた。さらに近年、歴女ブームに拍車をかけた大きな要因として、有名戦国武将たちが華麗に戦うアクションゲームの存在が挙げられる。誰もが知る織田信長や羽柴秀吉などが美形キャラクターにリメイクされ、ゲームを通じて気がつけばいつの間にか歴女になっていたという女性も決して少なくはない。

女子分類⑥ 仏女

【ぶつじょ】仏教好きの女性を指す造語。頑張る女性の癒しとして仏教が注目され、その中で生まれたと推察される。仏像好きの女性

という説もあり、どちらの説も成り立つ。スピリチュアルブームのなか、近年パワースポットとして人気が高まった高野山では、PRのため金剛峯寺と南海電鉄が期間限定で東京都渋谷区において「高野山カフェ」を開催し、毎回大盛況で参加者の大半が女性という結果に。この参加者を指して仏女と呼び始めたのが始まりだという説もある。

仏教の世界観を感じたり、座禅会や説法に参加したり、仏像をこよなく愛したりと、様々な嗜好があるが、一貫して入口は宗教的なものではないのが特徴。仏女となった後、入信する者がいそうなものだが、そのような話はあまり耳にしない。

女子分類⑦ 干物女

【ひものおんな】漫画「ホタルノヒカリ」の主人公・雨宮螢の生活ぶりを指した造語で、恋愛を放棄して様々な事を面倒がり、適当に済ませる女性を指す。主な特徴は、メールの返事が遅く文が短い、簡単な食事は台所で立ったままとる、忘れ物をしたら靴を履いたまま膝立ちで部屋に上がる、休日はノーメイク&ノーブラ、冬はムダ毛の処理を怠る・又は常にしない、一人で居酒屋やラーメン屋に入れる、最近ときめいていないなど。

女子分類⑧ 鉄子

【てつこ】漫画「鉄子の旅」に由来する女性の鉄道オタクを指す造語。「鉄道アイドル」として売り出す豊岡真澄さんのようなタレントも登場。幼いころからの鉄道好きと、鉄道オタクの恋人や夫と鉄道の旅をしているうちにハマったタイプの2つに大別される。後者の特例として電車好きの男の子の子育て中に一緒にハマった母親の鉄道ファンを指して「ママ鉄」とも表現される。